

大腸カメラ・大腸ポリープ切除術（短期滞在手術）説明・同意書

1. 大腸の中を直接内視鏡にて観察し、細心の注意を払いながら診断を行う方法です。
検査時間は平均 20－30 分です。
2. 検査中、より正確な診断を行うため必要に応じて以下のようなことが行われます。
 - ① 病理組織検査（生検）・・・病変の一部を鉗子で採取し、顕微鏡で詳しく検査します。
 - ② 色素散布・・・青い色素を散布してより詳細に病変を観察します。
3. 出血が見られた場合には、必要に応じて止血操作（内視鏡的止血術）を行います。
4. 内視鏡検査による偶発症としては以下のようなことが報告されています。
 - 1) スコープによる粘膜障害（粘膜亀裂）や裂創。
 - 2) 生検による出血や穿孔（腸に穴が開くこと）。
 - 3) 前処置の薬剤による副作用（頻脈、尿閉、局所麻酔剤アレルギーによるショック等）。
 - 4) 日本消化器内視鏡学会が報告した偶発症の頻度は 0.046%で、死亡率は 0.003%です（第 7 回全国調査報告）。
5. 大腸ポリープ切除術（短期滞在手術）に関して
ポリープが確認され、治療が妥当と判断した場合は同時に切除します。
大腸ポリープの切除に伴う偶発症発生頻度は、出血0.47%、穿孔0.048%と報告されています。
偶発症に対しては内視鏡的治療で対応できることが多いですが、まれに緊急手術が必要なこともあります。（消化器内視鏡関連の偶発症に関する第7回全国調査報告より。日本消化器内視鏡学会）

#万一、緊急事態が生じた場合には、入院や緊急の処置・手術が必要になることがあります。責任を持って対処いたします。

#私は内視鏡検査の目的と方法、危険性について上記の記載事項を読み、主治医の説明を了承しました。

私はえだがわ胃腸内科クリニックにて内視鏡検査を受けることに同意します。

令和 年 月 日

患者または代理人氏名（署名） _____

（代理人の場合、患者との続柄 _____）

説明医師 ： えだがわ胃腸内科クリニック 枝川 豪